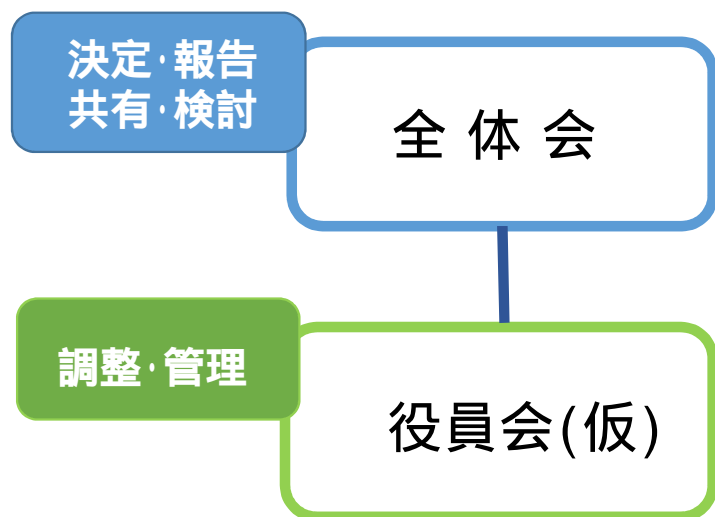


推進会議の体制(案)とモデル地区での検討状況

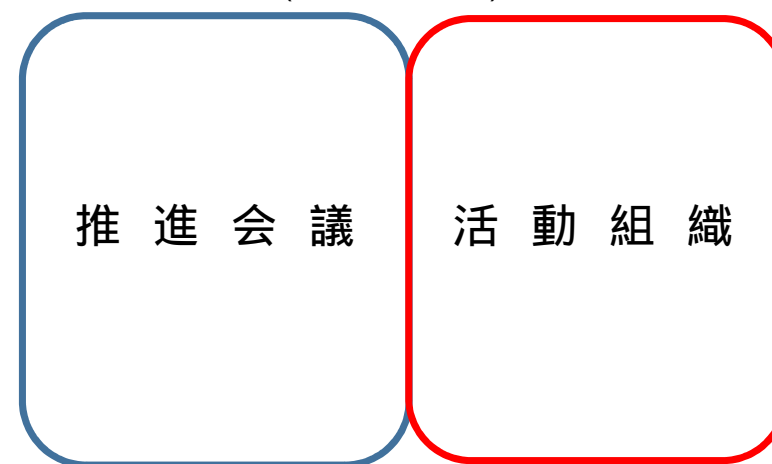
資料3

詳細は、第3回で説明します。

【推進会議の体制(案)】



【モデル地区での検討状況】 (活動組織)



全体会.....推進会議に関する事項の決定(参加者選定等)
地域情報の共有及び意見交換
地域課題に対する検討

役員会(仮)...全体会運営のための調整・管理

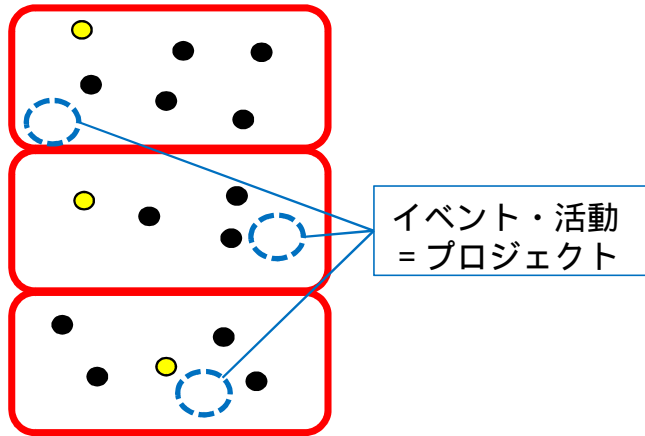
活動組織について

推進会議と活動組織を分けて、活動しやすい組織(機動的な活動、負担感の少ない組織)にする。
現在どんな形の組織が活動しやすいか、モデル地区で検討しています。

活動組織の例(パターン) (案)

資料3

パターンA



現在の部会を中心に活動組織を作り、プロジェクトを進める

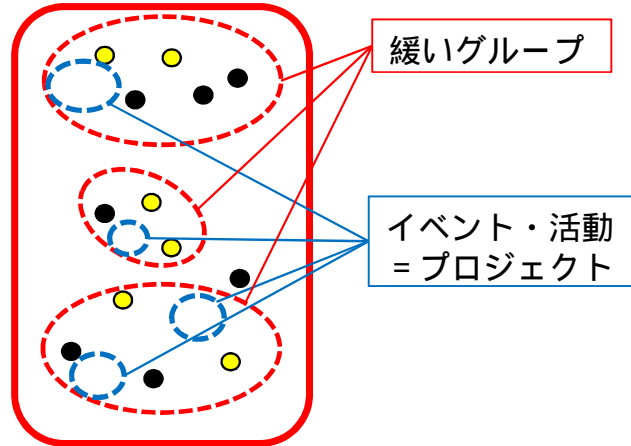
メリット

- 役割がはっきりとが分かれている。

デメリット

- 組織のルール(会則)が3つ必要。
- 組織ごとに代表が必要。
- 柔軟な活動がしにくいかも。

パターンB



一つの組織内でグループ(役割分け)を作り、プロジェクトを進める
現状の組織に近い

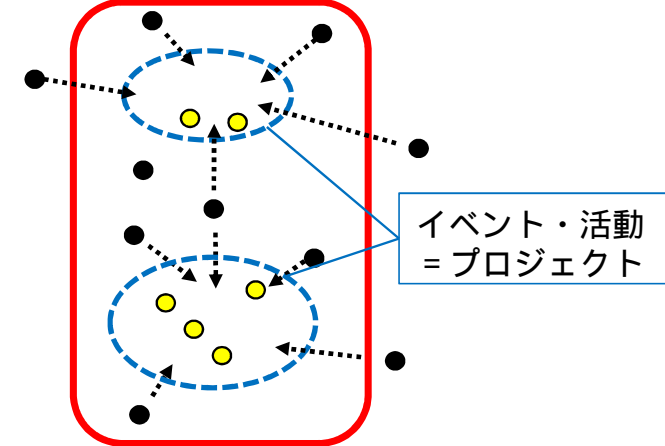
メリット

- 緩やかながら役割が分かれている。
- 組織のルール(会則)は1つでいい。

デメリット

- 一部の人に負担が寄りがちになる可能性。
- イベントを行う際の仕切りが大変そう。

パターンC



プロジェクトごとに中心となる人(コアメンバー 担当者)を決め、組織内外から参加者・協力者を集いプロジェクトを進める

メリット

- 機動的な活動がしやすい。
- 活動に参加するときの負担感が少ない?
- 組織のルール(会則)は1つでいい。

デメリット

- やる気次第で活動が減っていく可能性?

活動組織のイメージ図(案)

